インターネット上におけるプライバシーを感じる内容とプライバシー対策行動[1]

――プライバシー意識との関連から――

佐　藤　広　英（信州大学人文学部）
太　幡　直　也（常磐大学人間科学部）

要　　約

本研究では，インターネット（以下，ネット）上におけるプライバシーを感じる内容とプライバシー対策行動について，プライバシー意識との関連から検討を行った。221名のネット利用者を対象にウェブ調査を実施し，ネット上においてプライバシーを感じる内容と，プライバシーを維持するために実施している行動について，それぞれ自由記述で回答を求めた。その結果，プライバシーを感じる内容は14カテゴリ，プライバシー対策行動は７カテゴリにそれぞれ分類された。また，χ^2検定の結果，プライバシー意識が低い者は高い者に比べて，プライバシーを感じる内容として“個人情報全般”を挙げる割合が多く，プライバシー対策行動として“相互作用警戒”や“特になし”を挙げる割合が多かった。一方，プライバシー意識が高い者は低い者に比べて，プライバシー対策行動として“個人情報流出回避”を挙げる割合が多かった。

キーワード：プライバシーを感じる内容，プライバシー対策行動，プライバシー意識，インターネット

問　　題

近年の情報化社会の進展により，自分の名前，連絡先や過去の記録といった情報を誰もが容易に調べられる状態になっており，プライバシー保護への関心が高まりつつある。プライバシーについては法学，社会学や心理学等多くの分野で研究が行われており，各分野においてさまざまな定義が存在する。心理学分野においては，自己情報に対する他者からのアクセスの統制・規制と定義されている（e.g., Altman, 1975; Westin, 1967）。

プライバシーに関するこれまでの心理学的研究は，主に以下の三つの観点から行われている。第一に，個人がプライバシーを確保された状況をどの程度志向するか，すなわち個人特性としてのプライバシーを志向する程度（プライバシー志向性）に関する研究が挙げられる（岩田，1987；Marshall, 1972；Pedersen, 1979；吉田・溝上，1996）。例えば，Marshall（1972）

[1] 本研究は，2009年度社会安全研究財団若手研究助成を得て実施された一連の研究の一つである。

は，プライバシーを志向する程度を，“親密性”，“近所づきあいの無さ”，“閑居”，“独居”，“匿名性”，“遠慮期待”の六つの下位因子から測定する尺度を開発している。プライバシー志向性に関する研究の特徴として，一人でいたいと思う程度，一人で過ごす時間・空間が欲しいと思う程度など，プライベートな環境への志向性に焦点をあてている点が挙げられる。

第二に，プライバシーを感じる内容，情報に焦点をあてた研究が挙げられる（Burgoon, Parrott, LePoire, Kelley, Walther, & Perry, 1989；Rosenbaum, 1973；太幡・佐藤，2010，印刷中）。例えば，太幡・佐藤（印刷中）は，日常生活においてプライバシーを感じる内容を収集し，プライバシーを感じる内容が“連絡先”，“悩み・コンプレックス”，“生活スタイル”，“所有物”，“価値観”，“嗜好性”，“過去の出来事”，“最近の出来事”，“恋人・異性との関わり”，“友人との関わり”，“家族との関わり”の11カテゴリに分類できることを明らかにした。また，太幡・佐藤（2010）は，プライバシー意識とプライバシーを感じる内容の関連を検討し，プライバシーを意識しやすい者は，過去経験のような自己のネガティブな側面にプライバシーを感じやすいことを明らかにしている。

第三に，プライバシー侵害の経験や認知に関する研究である（Burgoon et al., 1989; Debatin, Lovejoy, Horn, & Hughes, 2009；Rosenbaum, 1973）。例えば，Burgoon et al.（1989）は，プライバシー侵害を，“心理情報的侵害”，“非言語的侵害”，“身体的侵害”，“非人間的侵害”，“言語的侵害”の五つの次元に分類できることを明らかにした。また，相手との関係性によってプライバシー侵害経験が異なることを示した。

一方，プライバシーに関する心理学研究について，以下の二点については未だ検討さていない。第一に，インターネット（以下，ネット）上においてプライバシーを感じる内容である。これまでの研究では，日常生活においてプライバシーを感じる内容に焦点が当てられているが（e.g.，太幡・佐藤，印刷中），匿名な不特定多数の他者とのコミュニケーションが多く行われ，プライバシーが問題となるネット上では，プライバシーを感じる内容およびそのカテゴリが日常生活とは異なる可能性が考えられる。第二に，プライバシーを維持するための行動である。これまでの研究では，プライバシー侵害については扱われているが（e.g., Debatin, et al., 2009），プライバシー侵害を防ぐための行動，すなわちプライバシーを維持するための行動（プライバシー対策行動）に関する研究は行われていない。

そこで，本研究では，プライバシーが問題となるネット場面に焦点をあて，ネット上においてプライバシーを感じる内容およびプライバシー対策行動を明らかにすることを目的とする。その際，太幡・佐藤（印刷中）の手続きを参考に，ネット利用者を対象とした自由記述式調査を実施し，プライバシーを感じる内容とプライバシー対策行動の収集を試みる。ネット上において，どのような内容にプライバシーを感じるか，どのような種類のプライバシー対策行動が行われているかを明らかにすることで，人々が情報化社会を安全に生き抜くための示唆が得られるものと考えられる。

また，本研究では，プライバシー意識と，プライバシーを感じる内容およびプライバシー対策行動の関連についても検討する。太幡・佐藤（2010）は，プライバシー意識の高さによって日常生活においてプライバシーを感じる内容の種類が異なることを示している[2]。したがって，ネット上においてプライバシーを感じる内容についても，プライバシー意識によって異なる可能性が考えられる。さらに，コミュニケーション・プライバシー・マネジメ

ント（Communication Privacy Management；以下，CPM）理論（Petronio & Durham, 2008）によると，他者に自己情報を伝達するか否かは，自己と他者の間で共有されたプライバシー境界（shared privacy boundary）によって異なるとされる。CPM 理論に基づくと，プライバシー意識が高い者は自己と他者の間のプライバシー境界を意識しやすいため，個人領域に対する他者からの侵害に敏感であると考えられる。実際に，佐藤・太幡（2011）は，プライバシー意識の高い者の特徴として，プライバシーを個人領域のように対象を限定しない幅の広い概念として捉えやすいことを示している。このことから，プライバシー意識はプライバシーを感じる内容だけでなく，プライバシーを維持するための行動であるプライバシー対策行動にも影響を及ぼす可能性が考えられる。

方　　法

調査対象者

インターネットアンケートサービス“goo リサーチ”の消費者モニター（600, 227名，2009年11月１日現在）から16歳以上60歳未満の成人サンプルを抽出し，そのうちランダムに選ばれた1, 000名に調査ページのＵＲＬを含むメールを配信した。そのうち, 221名（男性107名，女性114名；10代３名，20代28名，30代88名，40代78名，50代24名）から回答を収集した。なお，メール配信数は，早期回答者の偏りを防ぐために, ２～３日で回答が集まるように設定され，予定数に到達次第，終了となった。そして，データ品質の劣化を防ぐため，事前データとの照合により性別や年齢を偽っている可能性のあるデータや，きわめて短時間で回答されたデータの削除を行った。

調査内容

(a)ネット上において，見知らぬ他者に自分自身に関するどのような情報を知られたくないと思うか（プライバシーの内容），(b)その情報を知られないためにどのような対策を行っているか（プライバシー対策行動）について，それぞれ自由記述で出来るだけ多く書くよう求めた。併せて，プライバシー意識を測定するために，太幡・佐藤（2010）に基づき，人と比べてプライバシーを意識する方であると思うかについて，“意識する方”，“意識しない方”のいずれかに回答を求めた。

調査時期

2009年11月25日から27日であった。

分類方法

全員の回答について，社会心理学を専門とする研究者２名が KJ 法（川喜田，1967）を用いて分類を行った。まず，得られた回答のうち無回答を削除し，プライバシーの内容，プライバシー対策行動に分けてそれぞれ書き出し，内容の類似性，相違性を詳細に吟味し，カテ

---

[2] 太幡・佐藤（2010）では，半構造化面接を用いて，プライバシー意識によるプライバシーを感じる内容の質的な違いだけでなく，プライバシーを感じる内容の言及数や言及したカテゴリ数といった量的な違いについても検討している。一方，本研究で用いた自由記述式の調査では，各回答者のプライバシーを感じる内容やプライバシー対策行動をすべて収集できていない可能性が考えられる。したがって，プライバシー意識による量的な違いを検討することは難しいと考えられたため，本稿では割愛することとする。

ゴリを作成した。続いて，それぞれの回答について，カテゴリを作成した２名が別々に分類した。分類されたカテゴリが不一致だった場合には協議により再分類を行った。なお，２名の一致率は，プライバシーの内容が99.46％，プライバシー対策行動が98.11％であった。

結　　果

プライバシーの内容

プライバシーの内容に関する一人当たりの回答数は，$M=4.20$（$SD=2.58$）であった。プライバシーの内容についてKJ法による分類の結果，“名前情報”，“連絡先情報”，“視覚情報”，“社会属性的情報”，“家族情報”，“過去経験”，“社会的情報”，“趣味嗜好性”，“私生活”，“身体・健康情報”，“価値観”，“セキュリティ情報”，“収入情報”，“個人情報全般”の14カテゴリに分類された。各カテゴリの回答例および言及率を表１に示した。“名前情報”には，名前に関する事柄が分類された。“連絡先情報”には，個人と連絡が取ることができる連絡先に関する事柄が分類された。“視覚情報”には，外見・顔に関する事柄が分類された。“社会属性的情報”には，個人の社会属性に関する事柄が分類された。“家族情報”には，家族に関する事柄が分類された。“過去経験”には，個人の過去を表す事柄が分類された。“社会的情報”には，友人などの社会的関係に関する事柄が分類された。“趣味嗜好性”には個人の趣味嗜好性に関する事柄が分類された。“私生活”には個人の日常生活に関する事柄が分類された。“身体・健康情報”には，病気や身体的特徴に関する事柄が分類された。“価値観”には，物事に対する自分の考えや意見に関する事柄が分類された。“セキュリティ情報”には，暗証情報に関する事柄が分類された。“収入情報”には，個人の経済状況に関する事柄が分類された。最後に，“個人情報全般”には，情報の内容を限定しない個人情報全般に関する事柄が分類された。全体として，“連絡先”，“名前”，“社会属性的情報”が多く挙げられていた。

プライバシー対策行動

プライバシー対策行動に関する一人当たりの回答数は，$M=1.21$（$SD=0.43$）であった。プライバシー対策行動についてKJ法による分類を行った結果，“セキュリティ対策”，“相互作用警戒”，“危機回避”，“個人情報流出回避”，“個人特定回避”，“他者情報流出回避”，“特にない”の７カテゴリに分類された。各カテゴリの回答例および言及率を表２に示した。“セキュリティ対策”には，ウイルス対策といったコンピュータのセキュリティ対策の行動が分類された。“相互作用警戒”には，ネット利用そのものを抑制する行動が分類された。“危機回避”には，ネット利用の内，危険を感じるサイトの利用を抑制する行動が分類された。“個人情報流出回避”には，個人情報の開示を抑制する行動が分類された。“個人特定回避”には，個人情報のうち，個人を特定する情報の開示を抑制する行動が分類された。“他者情報流出回避”には，友人や家族などの他者に関する情報の開示を抑制する行動が分類された。プライバシー対策行動を行っていない者は，“特にない”に分類された。全体として，“個人情報流出回避”，“危機回避”，“個人特定回避”などの対策行動が多く挙げられていた。

プライバシー意識との関連

プライバシーを意識する方と回答した152名（68.78％）を高群，意識しない方と回答した

表１　プライバシーを感じる内容の回答例と言及率（%）

カテゴリ名	回答例	言及率
1．識別情報カテゴリ		
名前情報	名前	52.1
連絡先情報	住所，本籍，電話番号，メールアドレス	75.3
視覚情報	外見，写真	16.0
2．属性情報カテゴリ		
社会属性的情報	年齢，性別，出身地，職業，血液型	38.8
家族情報	家族構成，家族のこと	33.8
3．自伝的情報カテゴリ		
過去経験	過去のこと，学歴，職歴，経歴，結婚歴	11.9
社会的情報	交友関係，友人のこと	2.3
趣味嗜好性	趣味，関心	7.3
私生活	私生活，書き込み，閲覧履歴	6.8
身体・健康情報	体型，病気関連	5.9
価値観	思想信念，考え方	2.3
4．暗証情報カテゴリ		
セキュリティ情報	クレジットカード，暗証番号，パスワード	13.2
収入情報	年収，資産	21.5
5．その他		
個人情報全般	個人情報，個人の情報	17.4

表２　プライバシー対策行動の回答例と言及率（%）

カテゴリ名	回答例	言及率
セキュリティ対策	セキュリティソフトを使う パスワードを定期的に変える	11.9
相互作用警戒	やたらにアクセスしない あまり書き込みをしない	19.2
危機回避	怪しいサイトには近づかない 買い物はしない	23.7
個人情報流出回避	個人情報を書かない 自分のことをあまり書かない	28.3
個人特定回避	個人を特定されることは書かない 実名を載せない	23.7
他者情報流出回避	友人の情報を漏らさない 子どものことを書かない	13.7
特にない	特にない 何もしていない	10.5

69名（31.22%）を低群とした。回答者の性別，年代によるプライバシー意識の違いはみられなかった（性別：$\chi^2(1)=0.03$，年代：$\chi^2(3)=3.23$，*n.s.*）。

まず，プライバシー意識によるプライバシーを感じる内容の違いを検討するため，５%以上の者に言及されていた12カテゴリごとに言及した者の割合を比較した。プライバシー意識の高低によるプライバシーを感じる内容各カテゴリを言及した者の割合を表３に示した。χ^2検定の結果，低群では高群に比べ，“個人情報全般”を挙げた者が有意に多かった。それ以

外のカテゴリにおいては有意な差は得られなかった。

次に，プライバシー意識によるプライバシー対策行動の違いを検討するため，7カテゴリごとに言及した者の割合を比較した。プライバシー意識の高低によるプライバシー対策行動各カテゴリを言及した者の割合を表4に示した。χ^2検定の結果，低群では高群に比べ，“相互作用警戒”を言及する者が多く，“特にない”を言及する者が多い傾向がみられた。一方，高群では低群と比べ，“個人情報流出回避”を言及する者が多かった。

表3　プライバシー意識の高低による各内容を言及した人数の割合（%）

	プライバシー意識		χ^2値
	高群（n =152）	低群（n =69）	
名前情報	52.6	49.3	0.21
連絡先情報	73.0	78.3	0.69
視覚情報	15.1	17.4	0.18
社会属性的情報	39.5	36.2	0.21
家族情報	33.6	33.3	0.00
過去経験	11.8	11.6	0.00
趣味嗜好性	6.6	8.7	0.08
私生活	7.9	4.3	0.47
身体・健康情報	5.9	5.8	0.00
セキュリティ情報	11.2	17.4	1.60
収入情報	18.4	27.5	2.36
個人情報全般	10.1	20.4	3.50*

*p <.05
注）期待度数が5以下のセルがあるときには，イェーツの補正を行った。

表4　プライバシー意識の高低による各対策行動を言及した人数の割合（%）

	プライバシー意識		χ^2値
	高群（n =150）	低群（n =69）	
セキュリティ対策	13.3	8.7	0.97
相互作用警戒	14.0	26.1	4.72*
危機回避	26.0	18.8	1.34
個人情報流出回避	32.7	18.8	4.46*
個人特定回避	25.3	18.8	1.14
他者情報流出回避	1.3	1.4	0.03
特にない	8.0	15.9	3.17+

*p <.05，+p <.10.
注）期待度数が5以下のセルがあるときには，イェーツの補正を行った。

考　察

本研究の目的は，プライバシーが問題となるネット上において，プライバシーを感じる内容およびプライバシー対策行動の種類を明らかにすること，そして，プライバシー意識とプライバシーを感じる内容およびプライバシー対策行動の関連を検討することであった。本研究で得られた結果について，考察を行う。

プライバシーを感じる内容

ネット上においてプライバシーを感じる内容は14カテゴリに分類された。このうち，連絡先情報，社会属性的情報，家族情報，過去経験，社会的情報，趣味嗜好性，私生活，身体・健康情報，価値観については，日常生活におけるプライバシーを扱う太幡・佐藤（印刷中）においても類似したカテゴリが示されている。一方，名前情報，視覚情報，セキュリティ情報，収入情報がプライバシーを感じる内容として新たに確認された。これらのプライバシーを感じる内容は，匿名な他者とのコミュニケーションや購買行動が多く行われるネット上特有のものと考えられる。

次に，それぞれのカテゴリを言及した割合をみると，名前情報，連絡先情報や社会属性的情報に対して多くの者がプライバシーを感じていることが読み取れる。ネット上において連絡先等の個人を特定する情報は，漏洩すると詐欺などの迷惑行為の被害に遭う可能性が高まるため，プライバシーを感じられやすいと推察される。さらに，名前情報，連絡先情報や社会属性的情報は，ネット上のソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）において多く開示される情報である。SNS上において，利用者は多くのプライバシー侵害を経験するため（Debatin et al., 2009），これらの情報に対してプライバシーを感じる割合が多い可能性が考えられる。以上のことから，ネット上においてプライバシーを感じる内容は，日常生活においてプライバシーを感じる内容と異なることが示された。

さらに，個人情報全般を除く13カテゴリは，次の四つの大カテゴリにまとめられると考えられる。第一に，“識別情報カテゴリ”である。これは，名前や連絡先など，その情報が分かることで個人を識別することができるカテゴリが分類される。第二に，“属性情報カテゴリ”である。これは，性別や年齢などの社会属性や家族情報など，個人の基本的属性を示すカテゴリが分類される。第三に，“自伝的情報カテゴリ”である。これは，過去経験，趣味嗜好性，私生活など，個人の現在や過去の生活をあらわすカテゴリが分類される。これらの三つの大カテゴリは，ネット上の匿名性を私的情報の匿名性，属性情報の匿名性，識別情報の匿名性の三つのレベルに分類した佐藤（2012）の結果と一致している。そして，第四に，“暗証情報カテゴリ”である。これは，パスワードやクレジットカード番号などが分類される。暗証情報は，ネット上において不特定多数の相手に対しては匿名であることが求められる情報であるため，佐藤（2012）の匿名性の分類では得られなかったカテゴリであると考えられる。以上のことから，ネット上においてプライバシーを感じる内容は，四つの次元から捉えることができると考えられる。

プライバシー対策行動

プライバシー対策行動は，“特にない”を含む7カテゴリに分類され，プライバシーを維

持するための行動にはさまざまなものがあることが明らかとなった。特に，“個人情報流出回避”，“危機回避”，“個人特定回避”がプライバシー対策行動として多く行われていることが示された。このうち，“個人情報流出回避”と“個人特定回避”は，ネット上における情報開示を積極的に統制・規制する行動であると位置づけられる。前述の SNS 上においては，自らのどの情報を開示するか否かを自由に選択することが可能であることから，これらの行動は，より安全で快適な SNS 利用へとつながる方略であると考えられる。一方，プライバシー対策行動のうち，“相互作用警戒”は，ネット利用そのものを抑制する消極的な対策行動であり，開示する情報の統制・規制を伴わないため，安全性の低い対策行動であると考えられる。

プライバシー意識との関連

プライバシー意識とプライバシーを感じる内容との関連を検討した結果，低群では高群に比べ，“個人情報全般”を挙げた者が多かった。CPM 理論に基づくと，プライバシー意識が低い者は，自己と他者の間のプライバシー境界を意識しにくいため，個人情報全般のような内容が特定できない事柄をプライバシーの内容として多く挙げたと推察される。また，太幡・佐藤（2010）とは異なり，過去経験では差はみられなかった。匿名なネット上では，未知の他者に対して過去経験や悩みなどの自己開示が促進される（佐藤・吉田, 2008）。そのため，全体としてプライバシーを感じる内容として言及された割合が低かったものと推察される。

次に，プライバシー意識とプライバシー対策行動との関連を検討した結果，高群は低群に比べて“個人情報流出回避”を言及する者が多く，低群は高群に比べて“相互作用警戒”や“特にない”を言及する者が多かった。プライバシー意識の高い者は自己に対する他者からのアクセスに敏感であると想定されるため，個人情報に直接関わる“個人情報流出回避”を行う者が多いと考えられる。一方，プライバシー意識の低い者は，安全性が低いと想定される“相互作用警戒”を行う者，対策行動一切を行わない者が多いと考えられる。以上より，プライバシー意識を有することが，より安全なプライバシー対策行動につながる可能性が示されたといえる。

本研究の貢献と今後の展望

本研究の貢献として，ネット上におけるプライバシーを感じる内容とプライバシー対策行動を具体的に明らかにした点，プライバシー意識によってプライバシーを感じる内容やプライバシー対策行動が異なることを明らかにした点が挙げられる。したがって，これまで十分に明らかにされてこなかった，ネット上におけるプライバシー概念の特徴を示すことができたと考えられる。

今後の展望として，本研究で得られたプライバシーを感じる内容を基に，ネット上における個人情報に対するプライバシーを測定する尺度を開発する点が挙げられる。本研究の結果，プライバシー意識が安全なプライバシー対策行動につながる可能性が示された。一方，どの種類の内容・情報に対してプライバシーを有することが，安全なネット利用につながるかは検討されていない。プライバシーを情報の次元ごとに測定する尺度を作成し，プライバシー対策行動との関連を量的に検討することで，ネットを安全に利用するためのさらなる示唆が得られると期待される。

引用文献

Altman, I. (1975). *The environment and social behavior: Privacy, personal space, territory, crowding*. Monterey, CA: Brooks/Cole.

Burgoon, J. K., Parrott, R., Le Poire, B. A., Kelley, D. L., Walther, J. B., & Perry, D. (1989). Maintaining and restoring privacy through communication in different types of relationships. *Journal of Social and Personal Relationships*, **6**, 131-158.

Debatin, B., Lovejoy, J.P., Horn, A., & Hughes, B.N. (2009). Facebook and online privacy: Attitudes, behaviors, and unintended consequences. *Journal of Computer-Mediated Communication,* **15**, 83-108.

岩田　紀（1987）．日本人大学生におけるプライバシー志向性と人格特性との関係　社会心理学研究，**3**, 11−16.

川喜田二郎（1967）．発想法―創造性開発のために―　中央公論社（中公新書）.

Marshall, N. J. (1972). Privacy and environment. *Human Ecology*, **1**, 93-110.

Pedersen, M. D. (1979) Dimensions of privacy. *Perceptual and Motor Skills*, **48**, 1291-1297.

Petronio, S. & Durham, W. T. (2008) Communication privacy management theory. In L. A. Baxter & D. O. Braithwaite (Eds), *Engaging theories in interpersonal communication: Multiple perspectives*. Thousand Oaks, CA: Sage. pp. 309-322.

Rosenbaum, B. L. (1973). Attitude toward invasion of privacy in the personnel selection process and job applicant demographic and personality correlates. *Journal of Applied Psychology*, **58**, 333-338.

佐藤広英（2012）．CMC における他者の匿名性がコミュニケーション行動に及ぼす効果――情報の種類の観点から――　社会言語科学，**15**，17−28.

佐藤広英・太幡直也（2011）．プライバシー意識がプライバシーの捉え方に与える影響――ウェブ調査を用いた検討――　パーソナリティ研究，**19**，281−283.

佐藤広英・吉田富二雄（2008）．インターネット上における自己開示――自己−他者の匿名性の観点からの検討――　心理学研究，**78**，559−566.

太幡直也・佐藤広英（2010）．プライバシー意識がプライバシーを感じる内容，理由に与える影響　パーソナリティ研究，**18**，241−243.

太幡直也・佐藤広英（印刷中）．プライバシーを感じる内容とその理由の関係　人間科学.

Westin, A. F. (1967). *Privacy and freedom*. New York: Atheneum.

吉田圭吾・溝上慎一（1996）．プライバシー志向性尺度（本邦版）に関する検討　心理学研究，**67**，50−55.

（2012年10月31日受理，12月 4 日掲載承認）

Contents of private information and behaviors for preventing invasion of privacy on the Internet

Hirotsune Sato (Faculty of Arts, Shinshu University)
Naoya Tabata (Faculty of Human Science, Tokiwa University)

Abstracts

The present study investigated contents of private information and behaviors for preventing invasion of privacy on the Internet, in relation to privacy concerns. A web survey was conducted for 221 Internet users and the personal information they desired to keep private for anonymous others on the Internet and the behaviors for preventing invasion of privacy were collected in open-ended questions. Results indicated that the contents of private information were classified into 14 categories and the behaviors for preventing invasion of privacy were classified into 7 categories. The chi-squared tests revealed that the ratio of respondents who answered "overall personal information" as being private and the ratio of respondents who answered "avoiding information leakage" as behaviors for preventing invasion of privacy were greater in those who were less concerned about privacy. Moreover, the ratios of those who answered "bewaring online interaction" and "nothing" as behaviors for preventing invasion of privacy were greater in those who were less concerned about privacy.

Key words: contents of private information, behaviors for preventing invasion of privacy, privacy concerns, Internet